

地域の経済動向（令和4年7～9月期）

《釧路・根室地域》

1 経済動向に係る企業等の声（7～9月期）

【建設業】

・建設資材等の高騰により工事価格が上昇し、工事案件の見直しや延期が生じることで、民間工事の受注減少を懸念。（建築工事業）

【製造業】

- ・商談会でのつながりに助けられ、販路が広がり、売上は悪くない。（食品製造業）
- ・どさんこプラザ有楽町店でも取扱が開始した。加工品の売上はそこまで悪くない状況。コロナの影響で活動できなかった時期も、商談会での繋がりに助けられた。中標津町内のスーパー等で販売しており、ギフト製品も取り扱うこととなった。ウポポイ内のレストランで使用する製品についても相談を受けている。（食品製造業）
- ・売上は良く、輸出が伸びている（約60%）傾向。輸出は中国やベトナム、アメリカが中心。魚がどんどん北上しており、魚種が変化してきている。近隣の同事業者は取り扱う魚種をあまり広げていないが、当社は変化する魚種にも積極的に対応している。原料は99%が道内産。（水産加工業）
- ・値上げに関して、物が売れないと意味がないと考えており、やみくもに値上げを行うと消費者が離れるのが難しい現状。（水産加工業）
- ・自社工場内の敷地にて、キャンプ場を整備。自社製品も販売し、キャンプ需要をうまく取り込むことを狙っている。（製造業）
- ・道内のアンテナショップでのテスト販売制度は、新商品のテストマーケティングを札幌や首都圏で気軽に行えるので活用している。（製造業）

【卸売・小売業】

- ・道産小麦と外国産小麦をバランスよく利用させてもらっているが、問屋の営業努力で比較的安く購入できているので今年はさほど影響はないと思うが、来年は倍以上の値上がりを予告されているので、価格を上げるか考えている。（小売業）
- ・コロナ対策で、事前に注文いただければ非接触で商品を渡せるサービスを始めたが、こうした効果もあり売上はそれほど減少していない。（小売業）

【運輸業】

- ・第7波の中、乗務員を始め従業員に感染が拡大し、路線バス等の運行維持に不安を感じている。貸切バスの予約キャンセルは今のところ無いが、新規の予約が入らない。（一般乗合旅客自動車運送業）
- ・原油価格高騰により増大した輸送コストに対して、運賃の値上げを行っている。（運送業）




【サービス業】

- ・以前の客足が戻らず売上が減少傾向のままである。（飲食業）


【関係機関・団体】

- ・コロナによる経済活動停滞が予想以上に長引いており、原油価格高騰、円安などの影響が今後深刻化するものと思われる。現状では倒産・廃業はコロナ融資資金によりまだ増加していないが、業種（小売・建設・運送・観光）によって景況悪化が懸念される。（金融機関）
- ・昨年度に比べ漁獲量が落ちており、魚価は昨年並み。取扱高はここ数年で最高水準。（漁業組合）
- ・燃料費高騰による漁業者のコスト増が懸念され、水揚高に影響を及ぼす可能性あり。ブランド化に力を入れている。（漁業組合）

















2 道内金融機関から見た地域景況感 (7～9月期)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
非常に好調	好調	やや好調	普通	やや低調	低調	非常に低調
						

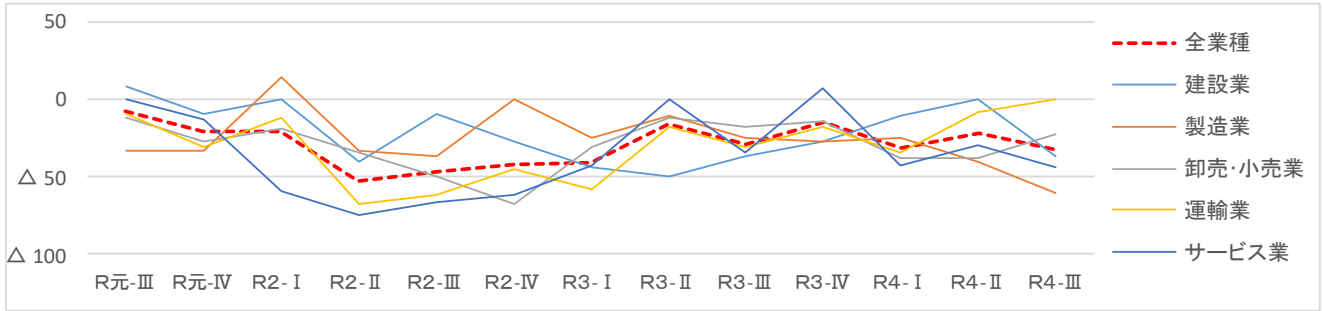
【直近の景況感】

	現在の景況感				次期見通し	
	総合	生産動向	消費動向	判断理由	方向感	判断理由
釧路信用金庫				消費は、新型コロナウイルスによる下押し圧力が一部で続いているものの、全体としては緩やかに持ち直している。生産は、原油価格高騰の影響等で仕入価格が増加し、悪影響を及ぼしている。また、設備投資等についても納期の長期化や一部製品の在庫不足などがみられる。		新型コロナウイルス感染症拡大が収束しつつあり、全国旅行支援が開始されたことで観光関連産業を中心に景気回復の見込み。
大地みらい信用金庫				生産動向については、漁業では燃料、資材費(漁網)高騰から経費支出が増加傾向にある。排他的経済水域(EEZ)内での鮭・鱒漁に関する日ロ漁業交渉が見送りとなり、日本のEEZ内のみ漁業となるため水揚げは厳しい見通し。サンマは漁場が遠く、魚体も小さく魚群も薄い。出漁時にはロシア当局による「拿捕」や「臨検」を要求されるリスクも増加しており、出漁回数が減少することが予想される。またEEZ迂回ルート選択による燃料費の増加、魚体の鮮度も落ちる可能性が指摘されている。酪農業では飼料をめぐっては国際需給の逼迫や米国での収量不安からトウモロコシ相場が高騰し、円安の影響も受け経費が増加した。乳価への価格転嫁は時間を要するため収益性に影響した。建築土木業では資材高騰により住宅購買需要低下、公共工事は大きく減少していないが、先行きは不透明である。消費動向については、基幹産業の不振(漁業、酪農)、物価上昇により消費行動への影響が大きく、購買意欲は低調に推移した。コロナ禍が継続しており、景況回復する要素が少なく、設備意欲、雇用など低調さが続くと判断した。		左記景況感の判断理由に基づき、同状況が短期間で解消される可能性は低く、今期同様の景況見通しと判断した。

【景況感の推移】

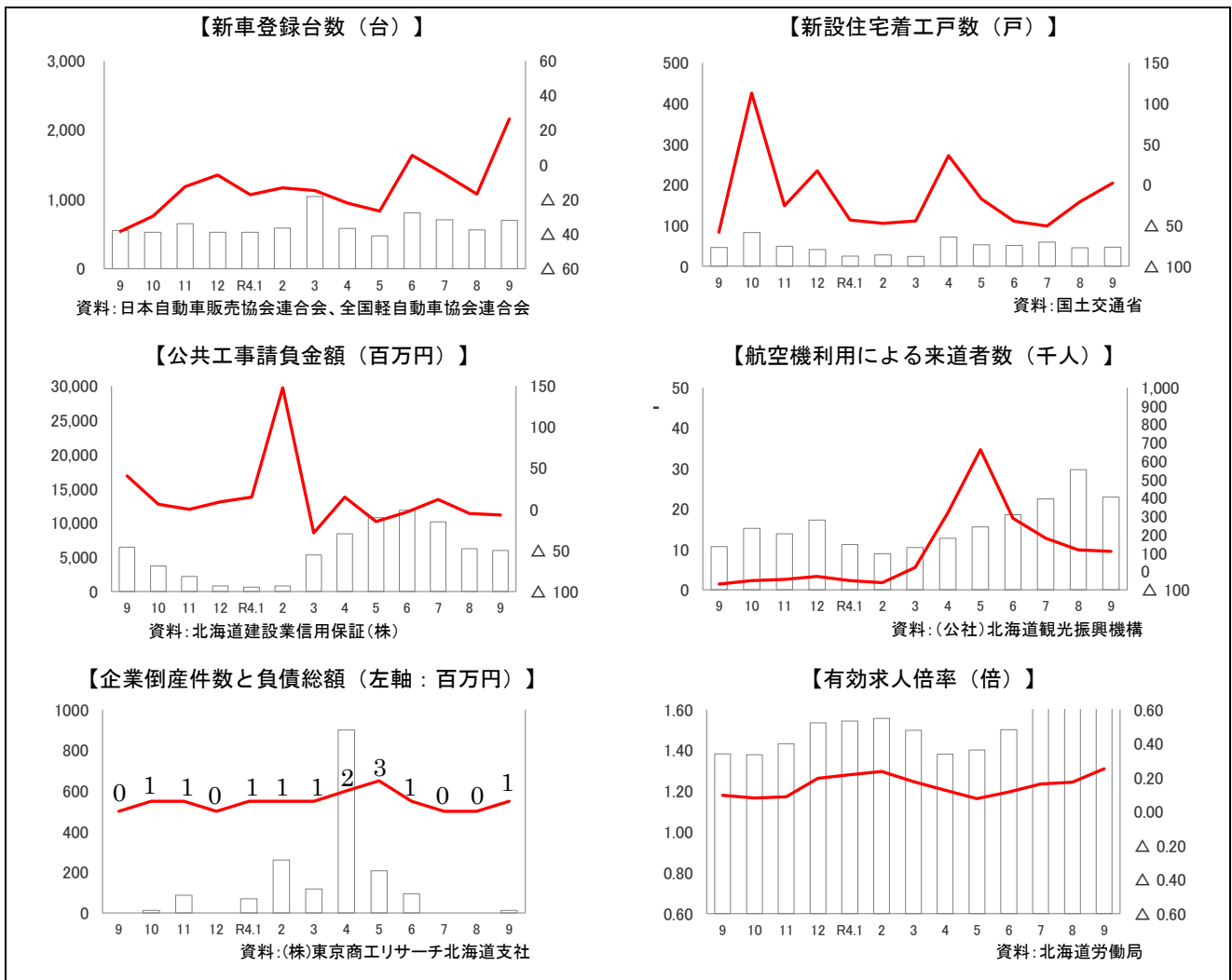
	R2-IV	R3-I	R3-II	R3-III	R3-IV	R4-I	R4-II	R4-III
釧路信用金庫								
大地みらい信用金庫								

3 業種別の業況感BSI (企業経営者意識調査)



	R元-III	R元-IV	R2- I	R2- II	R2- III	R2- IV	R3- I	R3- II	R3- III	R3- IV	R4- I	R4- II	R4- III
全業種	△ 7	△ 21	△ 20	△ 53	△ 46	△ 42	△ 41	△ 16	△ 29	△ 15	△ 31	△ 22	△ 32
建設業	9	△ 9	0	△ 40	△ 9	△ 27	△ 44	△ 50	△ 36	△ 27	△ 10	0	△ 36
製造業	△ 33	△ 33	15	△ 33	△ 36	0	△ 25	△ 10	△ 25	△ 27	△ 25	△ 40	△ 60
卸売・小売業	△ 11	△ 27	△ 19	△ 34	△ 50	△ 67	△ 30	△ 11	△ 18	△ 14	△ 38	△ 38	△ 22
運輸業	△ 9	△ 31	△ 11	△ 67	△ 62	△ 45	△ 58	△ 18	△ 30	△ 18	△ 34	△ 8	0
サービス業	0	△ 13	△ 59	△ 75	△ 66	△ 61	△ 43	0	△ 34	7	△ 43	△ 29	△ 44

4 各種経済指標



(右軸：来道者数のみ前々年同月比、その他は前年同月比(差)：%)